

平成30年度 第1回  
**会員・家族研修会**  
 開催される

平成30年度第1回会員、家族研修会は平成30年8月5日(日)午後3時から午後5時まで、滋賀県立男女共同参画センター2階研修室B・Cで開催されました。青木事務局長の開会の言葉に続き西浦会長より平成5年より始まった研修会の歴史が話され「研修会は断酒の意識付けに必要なものであり、

参加受講される事が断酒実行の糧である」と挨拶がありました。

はじめに、事務局長 青木 成治 氏の体験談発表がありました。冒頭、出席表(出席カード)を手に持ち私の断酒の歴史ですと話された。1000回の出席カードは、私は週3回の例会出席が出来て6年の歳月を要しましたが充実した日々でした。平成20年に1回目の精神医療センターを退院して、運良く半年後に再就職できた。職場では未経験者なのに年長者扱いで、期待に応えなければと自らを鞭打ち、本音を出せないままストレスだけが蓄積していった。飲むことだけが唯一の逃げる方法だった。週に1回だけ飲むという約束は守れるはずもなく、飲む量も回数もあつという間に増えていった。家では安心して腹一杯飲めないからと、通勤途上の飲酒運転が始まった。妻が「飲酒運転だけは、止めて。お父さん一人の問題では済まなくなる」と目の色を変えて訴えるのだが、私は耳に栓をした。家の中や車の中に隠し酒をした。掃除の邪魔と言われれば喜び勇んで外に出た。コンビニに行ってワンカップを一気飲みし、パチンコ屋に走った。帰りに転んで血だらけになって帰ったことも、救急車に運ばれて帰ってくることもあった。職場での飲酒が発覚して逃げるようにして帰る途中、記憶が飛んで車道側壁に激突、車は大破して、まともや警察のお世話になった。その大破した車を冷めた目で見たと、酒を止めなければ次には自分の命はないだろうと直感した。

2回目のセンター入院前に妻からは「退院したらどうやって生きていくのか考えてきてほしい」「もう仕事はしなくていいから断酒だけを頑張って」とも言われ、週3回の例会通いが始まった。今後も例会に通い酒を止めて行こうと思わずと語られた。

この後、ビデオ上映 映画「もう一つの人生」が上映された。酒を止めて人生を生きるか、夫々の人生が映し出され感銘を受けた。酒を止めねばの思いを強くした。

北見副会長の閉会の挨拶のあと終了しました。参加者は31名でした。(記・西浦)

